

## 泰安寺本堂及び表門



指定区分	県指定重要文化財(建造物)
読みかた	たいあんじほんどうおよびおもてもん
所在地	津山市西寺町
指定年月日	平成25年3月1日
解説	<p>泰安寺は、慶長8(1603)年に森忠正が津山入りする際に旧領地にあった涅槃寺(ねはんじ)を移転し、元文元(1739)年に泰安寺に改名した浄土宗寺院である。元禄11(1698)年に松平家が津山入封後は同家の菩提所となった。本堂は、桁行5間(15.9メートル)、梁間6間(16.3メートル)の入母屋造、本瓦葺きの大型本堂である。寛永21(1644)年建築で、平面は正面側に外陣(げじん)をとり、その奥中央に来迎壁(らいごうかべ)を伴った内陣、奥両脇に脇間を置く。内陣は正面と両側面を高敷居で結界しており、内陣の結界が残る浄土宗本堂としても貴重である。後年の改修はあるが、江戸時代初期の浄土宗本堂の形態をよく保つ優れた建物である。表門はやや大型の一間薬医門(やくいもん)で、17世紀中期の建築と考えられる。もとは北面していたが、寺域の整備、拡大に伴い天保10年(1839)頃に現在の位置に移されている。妻(つま)飾(かざり)に華やかさをみせる優作である。なお、寛永21年7月の本堂建立棟札と裏面に明治40年4月の屋根替が追記された宝暦6(1756)年正月の表門修理棟札が残されている。</p>
アクセス方法	JR津山駅から徒歩約15分
公開状況	外観のみ
設備	
備考	

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	泰安寺本堂及び表門
よみかた	たいあんじほんどうおよびおもてもん
しょざいち (所在地)	津山市西寺町
していたひ (指定した日)	平成25年3月1日
せつめい	<p>泰安寺は浄土宗のお寺で、慶長8(1603)年に森忠政(もり ただまさ)が津山藩主として津山に入った際に、元の領地にあった涅槃寺(ねはんじ)を移して建てられ、元文元(1739)年に泰安寺と名前を変えました。元禄11(1698)年に松平家が津山藩主となってからは、同家が代々供養される菩提所(ぼだいじょ)となりました。本堂は、南北15.9メートル、東西16.3メートルある入母屋造(いりもやづくり)の大型本堂です。寛永21(1644)年に建てられ、平面は正面側にお参りする人が入る外陣(げじん)をとり、その奥中央に仏様を置く内陣(ないじん)、その奥両脇に脇間(わきのま)を置きます。内陣には正面と両側を高い敷居で結界(けっかい)しており、内陣の結界が残っている浄土宗の本堂としても貴重です。新しい時代の改修はありますが、江戸時代初期の浄土宗本堂の形をよく保った優れた建物です。表門は親柱を屋根の少し前に立ててその後ろに控え柱を立てる薬医門(やくいもん)で、17世紀中期の建てられた考えられます。屋根の側面の壁に付いた飾りは華やかさをみせるすぐれた作品です。</p>